

防 除 第 20 号
令和 8 年 6 月 18 日

各 位

三重県病害虫防除所

令和 8 年度病害虫発生予報第 3 号

このことについて、下記のとおり発表します。

担当 三重県病害虫防除所

TEL 0598-42-6365 FAX 0598-42-7568

E-mail byogai@pref.mie.lg.jp

I 予報の概要

農作物名	病 害 虫 名	発生量 (平年比)	農作物名	病 害 虫 名	発生量 (平年比)
イネ	葉いもち	やや多	ナシ	ハダニ類	平年並
	穂いもち	平年並 ※発生時期 やや早	ブドウ	べと病	やや少
	紋枯病	平年並 ※発生時期 やや早	果樹共通	果樹カメムシ類	多
	白葉枯病	平年並	チャ	炭疽病	やや少
	斑点米カメムシ類	やや多		カンザワハダニ	やや少
	イネクロカメムシ	平年並		チャノホソガ	やや少
	ツマグロヨコバイ	少		チャノミドリヒメヨコバイ	やや多
	セジロウンカ	平年並 ※発生時期 平年並		チャノキイロアザミウマ	平年並
	トビイロウンカ	平年並 ※発生時期 平年並		クワシロカイガラムシ	やや多 ※発生時期 早
カンキツ	そうか病	やや多	イチゴ	チャノコカクモンハマキ	平年並
	黒点病	平年並		うどんこ病	やや多
	かいよう病	平年並		炭疽病	やや多
	ミカンハダニ	平年並	ネギ	ハダニ類	平年並
	チャノキイロアザミウマ	平年並		ネギコガ	やや多
ナシ	黒星病	平年並			

II 予報

巡回調査：5月29日から6月7日

イネ

1 葉いもち

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、本田における発生ほ場率は0%（平年0%）と平年並（±）
- 2) 巡回調査ほ場では、置苗に発生があるほ場の割合は0%（平年5.3%）と少（－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並（±）
- 4) ブラストム（5月1日から6月14日）では、感染好適条件となった延べ日数は25日（平年20.6日）と多（＋）
- 5) 1か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想（＋）
- 6) 巡回調査結果および一般ほ場の発生状況から現状の発生量は平年並と考えられますが、ブラスタムの結果及び今後の気象条件を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) ほ場を見回り、早期発見、早期防除に努めてください。
- 2) 補植用置苗は発生源となるので、速やかに取り除いてください。
- 3) 感染適温は24℃で、葉身の「ぬれ」時間が長いほど感染量が多くなります。
- 4) 雨天が続いた場合、天気予報を参考にしながら、雨の合間を見計らって防除をしてください。

2 穂いもち

(1) 予報内容 発生量：平年並

発生時期：やや早

(2) 予報の根拠

- 1) 農業研究所作況試験田（4月24日移植コシヒカリ、移植40日目）によると、葉齢の進展は平年よりやや早い
- 2) 一般ほ場での生育は茎数が平年並（±）
- 3) 葉いもち発生量はやや多の予想（＋）
- 4) 1か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想（±）
- 5) 水稻の生育状況を考慮して発生時期はやや早と予想されます。また、発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 上位葉の葉いもち病斑が伝染源となります。
- 2) ほ場および周辺ほ場での葉いもちの発生状況に注意してください。
- 3) 薬剤散布は出穂始めから穂揃い期に予防的に行ってください。

3 紋枯病

(1) 予報内容 発生量：平年並

発生時期：やや早

(2) 予報の根拠

- 1) 昨年8月の巡回調査ほ場では、発生ほ場率 10.4% (平年 22.6%) と少、発病度は 0.2 (平年 1.0) と少 (－)
- 2) 農業研究所作況試験田 (4 月 24 日移植コシヒカリ、移植 40 日目) によると、葉齢の進展はやや早く、茎数は平年並 (±)
- 3) 一般ほ場での生育は茎数が平年並 (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く降水量は多い予想 (+)
- 5) 水稻の生育状況を考慮して発生時期はやや早と予想されます。また、気象条件と昨年度の発生状況を考慮して、予想発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 幼穂形成期頃 (穂肥時期) から発生が目立つようになります。
- 2) 水面に近い茎から茎へ感染します。薬剤散布によって病斑の上位葉への進展を阻止してください。

4 白葉枯病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 県内では5月以降降水量が多い日があり、強い風を伴う日もあった。 (+)
- 2) 1 か月予報によると、気温は高く降水量は多い (+)
- 3) これまでのところ発生は確認されていないため、発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 深水、冠水、台風によって感染や発病が助長されます。
- 2) 予防的な薬剤散布が効果的です。常発地では台風直後に薬剤散布をしましょう。
- 3) 「みえのゆめ」は耐病性の弱い品種なので注意してください。

5 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯 (水田・松阪市、4 月第 1 半旬から 6 月第 2 半旬) では、誘殺数はアカスジカスミカメ 0 頭 (平年 10.8 頭) と少、アカヒゲホソミドリカスミカメ 5 頭 (平年 6.4 頭) と少、イネカメムシ 0 頭 (平年 0.4 頭) と少、ミナミアオカメムシ 76 頭 (平年 20.2 頭) と多 (±)
- 2) 巡回調査ほ場では、畦畔のすくい取りによる発生地点率は、ホソハリカメムシで 6.4% (平年 4.7%) と多、クモヘリカメムシで 0.8% (平年 0.3%) と多、シラホシカメムシ類で 8.8% (平年 4.0%) と多、アカスジカスミカメで 25.6% (平年 30.3%) と少、アカヒゲホソミドリカスミカメで 11.2% (平年 9.8%) とやや多 (+)
- 3) 一般ほ場では、畦畔雑草でホソハリカメムシやミナミアオカメムシ等の発生が見られるところがありますが、ほ場は限定的です。 (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く降水量は多い予想 (+)

- 5) 現状の発生量は平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 畦畔などのイネ科雑草で増殖します。草刈りをこまめに行い、イネ科雑草の穂がつかないように管理してください。
- 2) 水田内で雑草が多発すると、水田への侵入を助長するため、早めに除去してください。
- 3) 除草は出穂 10 日前までに実施してください。
- 4) 本田防除の薬剤散布は、穂揃い期とその 10 日後に行ってください。イネカメムシは出穂期の防除が効果的です。

6 イネクロカメムシ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 4 月第 1 半旬から 6 月第 2 半旬の予察灯（水田・松阪市）の誘殺数は 0 頭（平年 6.0 頭）と少、予察灯（畑・松阪市）の誘殺数は 64 頭（平年 69.9 頭）とやや少 （－）
- 2) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率 8.0%（平年 0.5%）と多、25 株当り成虫数 0.009 頭（平年 0.002 頭）と多 （＋）
- 3) 一般ほ場では、発生量は少 （－）
- 4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 常発地で薬剤散布する場合は、越冬成虫の発生量がピークとなる 6 月下旬に実施してください。
- 2) 日中は株元に潜んでいるので、夕方や曇天の日に薬剤散布を行うと効果的です。

7 ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：少

(2) 予報の根拠

- 1) 4 月第 1 半旬から 6 月第 2 半旬の予察灯（水田・松阪市）の誘殺数は 0 頭（平年 0 頭）と平年並、予察灯（畑・松阪市）の誘殺数は 0 頭（平年 15.6 頭）と少 （－）
- 2) 巡回調査ほ場では、はらい落とし成幼虫数 0 頭（平年 0.12 頭）と少 （－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 （±）
- 4) 予察灯、巡回調査結果、一般ほ場の発生状況から、現状の発生量は少と考えられ、引き続き発生量は少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 萎縮病を媒介しますが、本県での発生は少ないとされています。
- 2) 当面、防除が必要な密度には達しないと思われます。

8 セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（水田・松阪市、紀北町、御浜町、伊賀市）では6月11日現在、未飛来（水田・松阪市、平年初飛来7月7日）
- 2) 巡回調査ほ場では、はらい落とし成虫数は0頭（平年0.001頭）とやや少（－）
- 3) 一般ほ場では確認されていない（±）
- 4) JPP-NETのウンカ類飛来予測によると、6月15日現在、三重県に飛来が予測されていない（±）
- 5) 誘殺状況から発生時期は平年並で、誘殺状況、巡回調査結果、一般ほ場の発生状況から発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 例年、6月末から7月にかけて海外から飛来します。九州以北では越冬できないとされています。
- 2) 被害の発生は局所的であることが多いです。
- 3) 多発時は発生予察情報に従い防除してください。

9 トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（水田・松阪市、紀北町、御浜町、伊賀市）では6月11日現在、未飛来
- 2) 巡回調査ほ場では、はらい落とし成虫数は0頭（平年0頭）と平年並（±）
- 3) 一般ほ場では確認されていない（±）
- 4) JPP-NETのウンカ類飛来予測によると、6月15日現在、三重県に飛来が予測されていない（±）
- 5) 誘殺状況から発生時期は平年並で、誘殺状況、巡回調査結果、一般ほ場の発生状況から予想発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 例年、6月末から7月にかけて海外から飛来します。九州以北では越冬できないとされています。
- 2) 被害の発生は局所的であることが多いです。
- 3) 多発時は発生予察情報に従い防除してください。

カンキツ

1 そうか病

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 県予察ほ（御浜町、6月上旬、興津早生、無防除）では、春葉発病率98.0%（平年84.4%）と多、発病果率81.7%（平年73.7%）とやや多（＋）
- 2) 巡回調査ほ場では、春葉発病度0.03（平年0.03）と平年並（±）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並からやや多（概してやや多）（＋）
- 4) 1か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想（＋）

5) 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 常発ほ場や昨年多発したほ場、幼木園、高接ぎ更新園の温州みかんでは、発生に注意してください。

2) 果実への感染は梅雨末期頃までと言われています。

2 黒点病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 県予察ほ(御浜町、6月上旬、興津早生、無防除)では、果実発病率0(平年 32.3)と少 (－)

2) 巡回調査ほ場では、春葉発病度 0(平年 0.15)と少 (－)

3) 一般ほ場では、発生量は少から平年並(概して平年並) (±)

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

5) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視して平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 枯枝が伝染源です。梅雨時期の枯枝発生に注意し、樹冠内やほ場内の枯枝を除去してください。

2) 追加の薬剤散布は前回の散布後に積算降水量が 200mm から 300mm に達した時を目安に実施してください。

3 かいよう病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 県予察ほ(御浜町、6月上旬、新甘夏、無防除)では、春葉発病率0%(平年 2.8%)と少、発病果率0%(平年 0.08%)とやや少 (－)

2) 巡回調査ほ場では、春葉発病率は温州みかんでは0%(平年 0%)と平年並、中晩柑では0%(平年 2.3%)と少 (－)

3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

5) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視して平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 降雨があると急速に感染が広がるので、発生ほ場では雨の合間に防除してください。

2) 発病枝葉、果実は、見つけ次第剪除し処分してください。

3) 幼木や高接樹ではミカンハモグリガの被害部に発病しやすいので、ミカンハモグリガの防除を実施してください。

4) 中晩柑類では、梅雨期頃から10月中下旬頃まで果実への感染が起こります。

4 ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 県予察ほ（御浜町、6月上旬、興津早生）では、寄生頭数は無防除区 0 頭/100 葉（平年 61.9 頭/100 葉）と少、慣行防除区 1.1 頭/100 葉（平年 28.1 頭/100 葉）と少 （－）
- 2) 巡回調査ほ場では春葉寄生率 0.3%（平年 6.1%）と少、寄生頭数 0.01 頭/葉（平年 0.58 頭/葉）と少 （－）
- 3) 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並（概して平年並）（±）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （＋）
- 5) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視して平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 発生密度が高くなると防除が困難になります。1 葉当りの雌成虫発生数が 0.5 頭から 1.0 頭程度を目安に防除してください。
- 2) 薬剤は葉裏にもかかるように散布してください。
- 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RAC コードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

5 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 県予察ほ黄色粘着トラップ（御浜町、5月下旬、ネーブル、無防除）では、誘殺数 0.8 頭/日（平年 0.8 頭/日）と平年並 （±）
- 2) 県予察ほ（御浜町、6月上旬、ネーブル、無防除）では、寄生虫数 0 頭/100 果（平年 1.5 頭/100 果）と少 （－）
- 3) 巡回調査ほ場では、被害果率 0%（平年 0%）と平年並 （±）
- 4) 一般ほ場では、発生量は平年並 （±）
- 5) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （＋）
- 6) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 寄生果率 10%を目安に防除してください。
- 2) 7 月になり果実肥大が進むと果頂部で加害します。
- 3) ほ場周辺のイヌマキ・サンゴジュ等が発生源となります。

ナシ

1 黒星病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発病葉率 0.8%（平年 0.3%）とやや多 （+）
- 2) 一般ほ場では、発生量は平年並 （±）
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （±）
- 4) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視して平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 発病果及び発病葉は除去して、ほ場外に持ち出し処分してください。
- 2) 発病が確認されるほ場では、すみやかに防除を計画してください。
- 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RAC コードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

2 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、寄生葉率 0%（平年 0.1%）と少、寄生頭数 0 頭／葉（平年 0.01 頭／葉）と少 （-）
- 2) 一般ほ場では、発生量は平年並 （±）
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （+）
- 4) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視して平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 1 葉当り寄生数が 1 頭から 2 頭で防除を実施してください。
- 2) 7 月から 8 月に密度が高くなります。徒長枝での発生にも注意してください。
- 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RAC コードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

ブドウ

1 ベと病

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発病葉率 0%（平年 0%）と平年並 （±）
- 2) 一般ほ場では、発生量は少 （-）
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （±）
- 4) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視してやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 降雨が連続すると病徴が急速に進展するので、葉裏に病斑を認めたら直ちに薬剤を散布してください。

- 2) 降雨の合間に防除を計画してください。
- 3) 被害葉及び被害落葉は感染源となるのでは場外に持ち出して処分してください。
- 4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RAC コードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

果樹共通

1 果樹カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多

(2) 予報の根拠

- 1) 予察灯（御浜町、5月下旬）では、誘殺数はツヤアオカメムシ 1,375 頭（平成 201.8 頭）と多、チャバネアオカメムシは 10,769 頭（平成 4,868.0 頭）と多 （+）
- 2) 予察灯（畑・松阪市、6月上旬）では、誘殺数はツヤアオカメムシ 78 頭（平成 74.1 頭）とやや多、チャバネアオカメムシ 206 頭（平成 162.1 頭）と多 （+）
- 3) フェロモントラップ（5月第4週）では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、平坦地（松阪市嬉野川北町）で 60 頭（平成 40.9 頭）と多、中間地（津市白山町二本木）で 217 頭（平成 140.5 頭）と多、山地（津市白山町川口）で 77 頭（平成 121.2 頭）と少 （+）
- 4) 巡回調査ほ場では、かんきつほ場における叩き落とし調査による飛来は 0.08 頭（平成 0.01 頭）と多、ナシほ場における見とり調査では 0 頭（平成 0.01 頭）とやや少 （±）
- 5) 一般ほ場では、発生量は多 （+）
- 6) 現状の発生量は多と考えられ、引き続き発生量は多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) ほ場内を観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。
- 2) 夕刻から活発に飛翔するので夕方の薬剤散布が効果的です。
- 3) 中山間地や以前多発したことがある地域では、ほ場への飛来に注意してください。

チャ

1 炭疽病

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率 0.0%（平成 3.9%）と少、発病葉数 0.0 枚/m²（平成 0.1 枚/m²）と少 （-）
- 2) 一般ほ場では、発生量は平成並 （±）
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （+）
- 4) 現状の発生量は少と考えられ、今後の気象条件を考慮して、発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 旧葉の病斑が感染源です。新葉の展葉までに毛茸の脱落部分から感染します。
- 2) 新芽の 1 葉期前後に感染し易く、15 日から 20 日の潜伏期間を経て発病します。
- 3) 二番茶摘採後に整剪枝を行うことによって、発生が抑制できます。

2 カンザワハダニ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率 18.8%（平成 51.2%）と少、寄生葉率 0.9%（平成 3.3%）と少、寄生頭数 0.02 頭／葉（平成 0.08 頭／葉）と少 （－）
- 2) 県予察ほ（亀山市、5月中旬から6月上旬）では、寄生頭数 0.01 頭／葉（平成 0.23 頭／葉）と少、寄生葉率 0.33%（平成 2.0%）と少 （－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平成並 （±）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （＋）
- 5) 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 葉裏に産卵するので、丁寧に散布してください。
- 2) 発生時期は、天敵が増加する時期なので、天敵に影響が少ない薬剤を選択してください。
- 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RAC コードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

3 チャノホソガ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、巻葉数 0.0 枚／㎡（平成 0.3 枚／㎡）と少 （－）
- 2) 県予察ほフェロモントラップ（亀山市、5月第 3 半旬から6月第 2 半旬）では、誘殺数 1,279 頭（平成 3,894 頭）と少 （－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平成並 （±）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （＋）
- 5) 現状の発生量は少と考えられ、今後の気象条件を考慮して発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 年間 6 世代から 7 世代発生します。
- 2) 防除適期はふ化直後の潜葉期（絵描き状態）です。
- 3) ハマキムシ類の間接暴露による薬剤抵抗性の発達を避けるため、ジアシルヒドラジン系 IGR 剤、ジアミド剤の使用回数は最大年 1 回までとしてください。

4 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、叩き落とし虫数 1.8 頭（平成 2.7 頭）とやや少 （－）
- 2) 県予察ほ黄色粘着トラップ（亀山市、5月第 3 半旬から6月第 2 半旬）では、捕殺数 27 頭（平成 53 頭）と少 （－）

- 3) 一般ほ場では、発生量はやや多 (+)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)
- 5) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視してやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 年間 5 回から 8 回発生し、新芽を加害します。葉先が褐変し、ひどくなると落葉します。
- 2) 萌芽期から開葉初期に防除してください。

5 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、叩き落とし虫数 1.9 頭（平年 1.3 頭）とやや多 (+)
- 2) 県予察は黄色粘着トラップ（亀山市、5 月第 3 半旬から 6 月第 2 半旬）では、捕殺数 581.4 頭（平年 511.5 頭）とやや多 (+)
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)
- 5) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視して平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 年間 7 回から 8 回発生し、新芽を加害します。萌芽初期に芽の芯から加害し、条痕となります。
- 2) 萌芽期から開葉初期に防除してください。

6 クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量：やや多

発生時期：早

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、雌寄生株率 0.9%（平年 6.3%）と少、雄繭発生株率 22.6%（平年 11.6%）と多 (+)
- 2) 有効積算温度による予測式では、第 2 世代幼虫ふ化最盛日は 7 月 10 日頃（5 年平均 7 月 16 日頃）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)
- 5) 予想発生時期は早と予想されます。また、現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 年 3 回発生します。ふ化最盛期が防除適期です。
- 2) 歩行型幼虫の発生状況をルーペ等で実際に確認して防除してください。
- 3) ふ化開始から 2 週間程度の断続的な散水によりふ化抑制及びふ化幼虫の生存率を低下できます。

4) 天敵に影響の少ない薬剤を選択してください。

7 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、ハマキムシ類巻葉数 0.1 枚/㎡ (平年 1.8 枚/㎡) と少 (－)
- 2) 県予察ほフェロモントラップ (亀山市、5 月第 3 半旬から 6 月第 2 半旬) では、誘殺数 315 頭 (平年 233 頭) と多 (+)
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)
- 4) 現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件から発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 年間 4 世代発生します。防除適期は誘殺ピークの 7 日から 10 日後です。
- 2) 病害虫防除所ホームページにフェロモントラップの誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。
- 3) 交信かく乱剤をまとまった面積に実施することにより、次世代以降の密度を下げるができます。
- 4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐためジアシルヒドラジン系 IGR 剤、ジアミド剤の使用回数は最大年 1 回までとしてください。

イチゴ

1 うどんこ病

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発病株率 1.3% (平年 0.6%) とやや多 (+)
- 2) 一般ほ場での発生量は平年並 (±)
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (±)
- 4) 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 育苗期の防除を徹底してください。
- 2) 薬剤防除は予防散布に努めます。葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布してください。
- 3) 発病を認めたときは、集中的に散布して感染拡大を防いでください。

2 炭疽病

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発病株率 0% (平年 0%) と平年並 (±)
- 2) 一般ほ場での発生量は平年並 (±)

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

4) 現状の発生量は平年並と考えられ、今後の気象条件を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 病原菌は高温多湿を好み、梅雨時期以降に発生が多くなるため、十分な注意が必要です。

2) 病原菌（孢子）を含む水の跳ね返りで感染が拡大します。頭上灌水は避け、株を濡らさないようにしてください。

3) 発病株は感染源となるため、周辺株を含めて直ちに除去し、処分してください。

4) 薬剤防除は、薬液が株元まで十分かかるよう丁寧に散布してください。

3 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、寄生株率 8.2%（平年 3.1%）と多 (+)

2) 一般ほ場での発生量は平年並 (±)

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

4) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視して平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 作物残さから歩行して移動します。葉かき後の残さはほ場外に持ち出し、速やかに処分してください。

2) 多発すると防除が困難になります。早期発見に努め、発生初期に防除を行ってください。

3) 散布は葉裏を中心に丁寧に行ってください。

4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RAC コードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

ネギ

1 ネギコガ

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、発病株率 0%（平年 0%）と平年並 (±)

2) 一般ほ場での発生量は平年並 (±)

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

4) 現状の発生量は平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 春から秋にかけて 4 回から 5 回発生します。

2) 幼虫は葉の内部に潜り、表皮を残して食害します。潜入防止のため、発生初期から防除を行うことが重要です。

Ⅲ 気象予報

東海地方 1 か月予報（令和 8 年 6 月 11 日 名古屋地方気象台発表）

暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。

前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は多いでしょう。

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

1 週目 6 月 13 日～19 日	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
2 週目 6 月 20 日～26 日	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
3～4 週目 6 月 27 日～7 月 10 日	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

Ⅳ その他

- ・本冊子の見方を説明した「病虫害発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001257461.pdf>

- ・予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>